

令和7年度廃棄物処理懇話会会議録

- 1 会議名 令和7年度一関地区広域行政組合廃棄物処理懇話会
- 2 開催日時 令和8年2月19日(木) 午前10時00分から午前11時40分
- 3 開催場所 一関清掃センターリサイクルプラザ3階大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐藤和久委員(会長)、小坂和廣委員(副会長)、及川秀市委員、村上誠志委員、佐藤勇一委員、北條喜久男委員、熊谷律子委員、鈴木節郎委員、鈴木勉委員、佐々木幸委員 (10名)
 - (2) 事務局 佐藤正幸事務局長、菅原彰事務局次長兼一関清掃センター所長、西山朋志総務管理課長、村上匡環境衛生係長、佐藤光憲主任 (5名)

5 議事録

- (1) コンテナ等回収実証事業と今後のごみの収集方法について
- (2) 新施設整備の進捗状況について
- (3) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 事務局長挨拶

廃棄物処理懇話会は、ごみ処理の適正化及び効率化の推進に関してご意見又はご提言を頂戴する場と捉えている。

本日は、昨年度より引き続き実施している指定ごみ袋の負担軽減や資源ごみの回収増によるごみの減量に向けた、指定ごみ袋を使用しないごみの収集方法を検討するための「コンテナ等回収実証事業」の実績と事業の総括をご説明し、今後のごみの収集についてのご意見を賜りたいと考えている。

今年度の事業は、10月から12月までの3か月間、市民センターなどの公共施設に協力していただき、コンテナ等に「缶・ペットボトル」2種類の資源ごみを出していただき、設置や利用についての課題を検証し、設置した公共施設や周辺地域の行政区長に協力いただき、意見をアンケートにより聴取した。

参加いただいた公共施設や地域の皆様にご協力いただき、貴重な検証実績やご意見を頂戴することができたと考えている。

また、新しいごみ焼却施設の施設整備も事業者が決まり、施設計画に基づいて順調に進んでおり、組合としては、施設整備の現状をご説明し、併せてごみの処理についての課題の把握に努めたいと考えている。

今後のごみの収集方法に対する考え方を、総合的な視点で検討していくため、利用される住民や事業者及び有識者の視点でのご意見が重要になってくるものと考えているので、忌憚のないご意見をいただきたい。

9 協議内容

- (1) コンテナ等回収実証事業と今後のごみの収集方法について

委員 実証事業は5か所で継続し回収しているというが、費用の負担や誰が回収しているのか。
事務局 継続実施は、涌津市民センター、摺沢市民センター、磐清水市民センター、室根市民センターおよび川崎市民センターの5か所で、地域協議会が管理して市内の集団回収で買取している業者に買い取っていただき、なおかつ市の集団回収事業の報奨金で収入を得る形で資源化を図っていただいている。

コンテナなどの器具と看板はそのまま譲渡し、使用したフレコンバックも提供し、ある程度溜まったら業者に連絡して引き取ってもらうこととした。

委員 ペットボトルのキャップを収集の対象にできないか。

ペットボトルキャップを子どもたちのワクチンに変えられるということで、花泉では学校を中心に、周辺の方々にお願いして結構集まっている。

事務局 ボトルのキャップについては、一関市役所の本庁でも一時期自主的な取り組みで回収した経緯があるが、集積所収集ではプラスチック製容器包装として資源化を行っているが、ペットボトルと材質が異なるので、買い手が変わってくる。

ペットボトルキャップだけ集めると、単一素材なので他のプラスチック製品に比べるとかなり資源的に価値が上がることになる。

ただし、周辺では買取ルートがないということで、自主的な売り払いのルートがあるのであれば、開拓していただいて自主的取り組みとして推進していただくのは非常に良い活動と思う。

委員 実証事業をこれからどうするか。

また、指定ごみ袋を、北上市で実施しているように、有料化は避けられないと思う。

事務局 コンテナ等回収実証事業は、指定ごみ袋を使わないごみの減量の一つの手段にすることで、資源にすることでごみ減量を図りましょうというのが、スタートになっていて、今回の検証で、どれくらいのスペースやどれくらいの費用でやればできるかわかった。

今後は、設置に向けた拡大を図っていきたいというふうに考えている。

また、どうしても指定ごみ袋が高いというイメージがあるが、利用している方の一部には、出しやすさと衛生的であるという考えを持っている方はいる。

今日いただいた意見を踏まえて、今後の方向性をまとめていくが、できるところから組合として情報発信を行っていく。

委員 拠点の場所は市民センター、公共施設を中心に進めていけば良いと思う。

もっと安いごみ袋はできないものか。

一関のごみ袋は厚くて立派だが、花巻の高校の先生の意見では、花巻のごみ袋は薄くても十分使えると言っており、花巻の知り合いも、使用には別に問題ないと言っていた。

花巻は同じ厚さで3種類あり、実証事業と主旨が同じなので、ごみ袋の見直しの検討をお願いする。

また、注意書きも、ごみ袋にいっぱい書いてあるけど誰も読まないのもう少し簡単、明瞭にならないか意見して申し上げておく。

(2) 新施設整備の進捗状況について

委員 新たなごみの分別案に関して、プラスチック製容器包装と発泡スチロールトレイを一緒にするのはよいが、なぜプラスチック製品を一緒に分別にしたのか、また、古着はなぜ新たな分別に出てきたのか。

事務局 プラスチック製容器包装と発泡スチロールトレイについては、これまで別々に分別して出していたが、分別した種類ごとに回収業者に引き渡していた。

法律が変わって、製品プラスチックと呼ばれる資源として、回収するよう義務付けられている。

製品プラスチックというのは、小さいものだとストローなどで、そういう小さいものを含めてひとまとめで出してもらうことで、プラスチックのリサイクルが進むだろうという考えもありまして、資源として出させていただくことで考えている。

古着については、これまで公衛連の皆様の協力等をいただき、イベント的に回収を実施

しその都度たくさん出していただいている状況にある。

古着の組合による回収についても、住民の皆様は古着は資源になるという意識を徹底していただき、燃やすごみをいくらかでも減らしていくという考えである。

委員 危険有害物の中身について、具体的に教えてほしい。

事務局 危険有害ごみについては、ニュース等でご覧になっているとおり、収集の時点で火災が発生することや、焼却施設の中で火災が発生すると大変な事故になる恐れもあり、火災となれば数か月以上にわたって施設を停止して修理しなければならなくなりますことから、分けて出していただく予定としている。

また、危険有害ごみの出し方のひとつで、新しい施設での収集では、スプレー缶は使い切った後に出していただき、穴を開けないで出していただく取扱いになる。

委員 製品プラスチックの図を見ると、シャンプーとか洗剤みたいな容器もあるが、これらは洗って出すことになるのか、それとも洗わないで出してもよいのか。

事務局 プラスチック製容器と出し方が変わるわけではない。

まとめる部分は洗って出していただき、今まで燃やすごみになるのか燃やせないごみになるのかわからなかったプラスチック製品が、全部プラスチック資源になるので、今よりシンプルな出し方になる。

ただ、汚れていると資源化できなくなるのは一緒なので、水洗い程度はしていただく。

(3) その他

委員 ごみ袋の価格が安いものを是非検討してもらいたい。

薄いものでよいし、薄いものと厚いもの二つでもよい。

委員 業者で回収する方ですが、あまり薄い袋でごみを出されると、車に積む最中や運ぶときに破れてごみが出てしまう。

ある程度強度は欲しく、あまり薄いと持ち上げた途端に袋が破れて中身が出てたり、ビンだとみんな割れてことがあるので、ものによって丈夫なものを使ってほしい。

破れると回収に時間がかかるし、作業が進まなくなる。

委員 ごみ袋の材料はポリエチレンで、ポリエチレンは種類に幅があり、厚さだけで決まらないことから、薄くても良い材料を使えば丈夫だし、厚くしても悪いものを使えば簡単に破れる。

事務局 提案いただいたものについて、要綱を直して明文化している部分の修正も必要になるものもあり、すぐに見直すことはできないが、今後新しい施設になったときに収集の部分と併せてごみ袋の件を検討していく。

10 その他 なし

11 担当課 一関清掃センター